

心豊かでたくましい児童生徒を育む

小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば vol.33

確かな学力を身に付けるために

授業力向上のための教員研修

11月27日、施設一体型の小中一貫三戸学園（三戸小学校・三戸中学校）を会場に、町内全ての教職員を対象とした授業交流発表会が開催されました。

この2校では、学校課題解決のために進んでいる校内研究のテーマを「小中一貫教育校における確かな学力をはぐくむ授業の在り方の研究」として、授業力（指導力）向上のための研究を行っています。

全ての学級の授業を公開した後、5つの会場に分かれて日々の授業実践に役立てる教材や情報などの紹介を、ワークショップ形式を取り入れながら行いました。

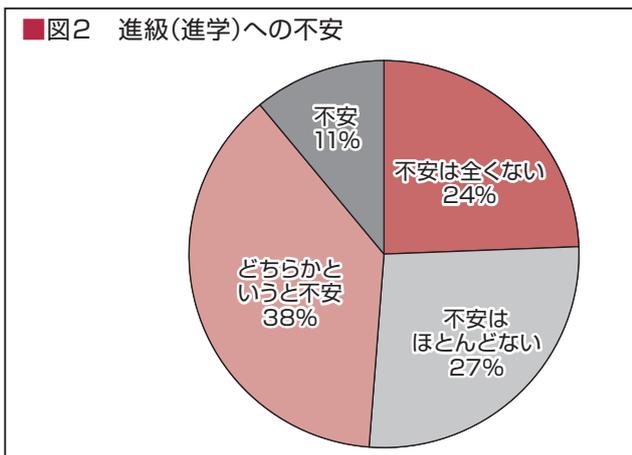
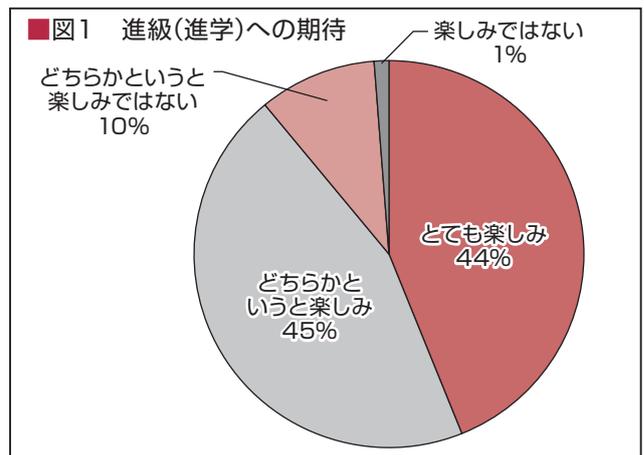
7年生進級前ガイダンスの開催

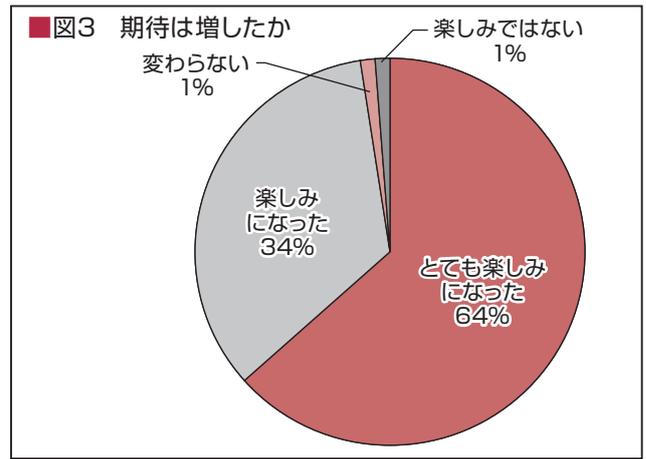
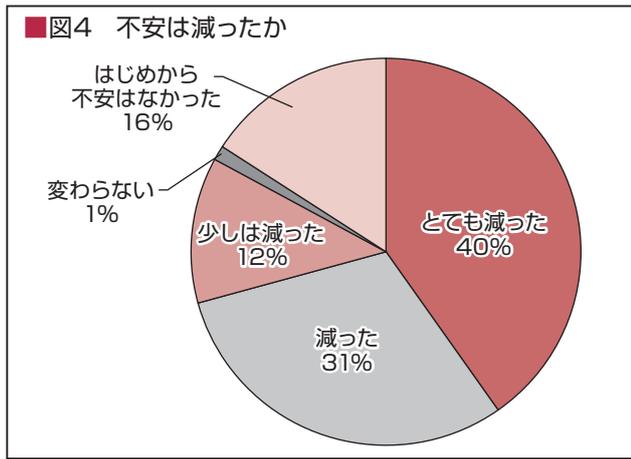
冬休み前の12月19日には、6年生（参加者82名）を対象に、「基本的な生活習慣の重要性に関すること」「勉強方法と学習計画の立て方に関すること」の2つの講話を行うガイダンスを行いました。

昨年までの3年間は中学校入学前ガイダンスとして行っていました。が、今年度からは小中一貫教育が本格的にスタートしことから、名称を7年生進級前ガイダンスと改めての開催となりました。

参加した児童に対するアンケート結果からは、7年生への進級（中学校進学）に対する期待が大きくなり、不安が減少したという状況が読み取れます。（図1～4）

また、7年生への進級（中学校進学）に伴い乱れがちな生活習慣、特に睡眠に関する重要性を認識し、生活改善に対する意識が高まったり、中学生からの勉強方法について理解が深まったりしていることも分かっています。





小中一貫教育が本格的にスタートしたことで、アンケート結果にも変化が見られました。

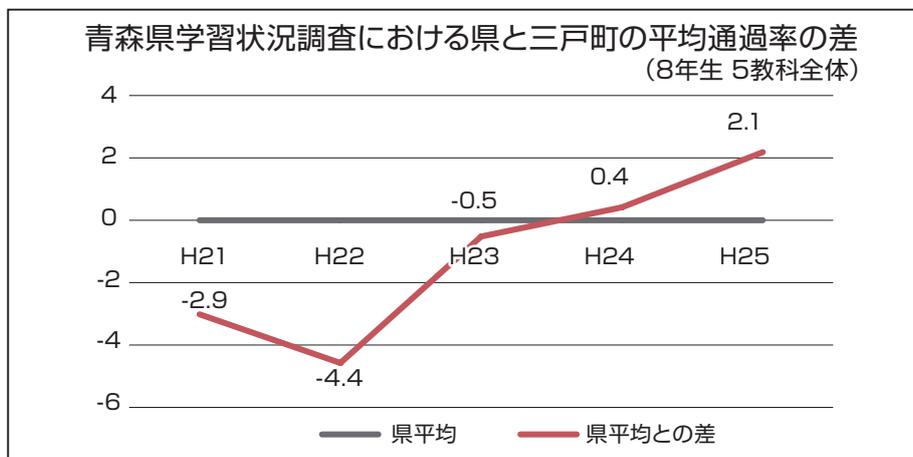
小中一貫三戸学園（三戸小学校・斗川小学校）の5、6年生は通常の45分より長い50分授業を行っています。このことにより、7年生以降（中学校）の授業時間へのギャップはなくなりました。また、斗川小学校では定期テストを行っており、中学校と同様にテスト週間も設けて計画性をもって勉強する取り組みを行っています。このことにより、中間テストや期末テストに対する不安が大きく減少しました。（H24 5名↓H25 1名）

取り組みの成果

紹介してきたように、子どもたちに指導する教員は、分かりやすい授業を行うために研修を重ねています。一方で指導を受ける子どもたちに対しても、学校生活を支える生活習慣の改善や、学習に対する意欲を喚起する取り組みを併行して行い、教員の指導を効果的に身に付けることを目指しています。

これらの取り組みで、どのような成果が出ているのでしょうか。

次のグラフは、青森県教育委員会が、確かな学力の育成のために、小学5年生、中学2年生の学習内容の定着の度合い等を調査している「学習状況調査」において、8年生（中学2年生）の県と三戸町の※平均通過率を経年で比べたものです。



※平均通過率

問題ごとに正答した児童生徒の人数の割合が通過率であり、全問題の通過率の平均（100点満点に換算したときの平均点）の数値。

連携型の小中一貫教育がスタートした平成21年度は県平均を下回っていましたが、この4年間で県平均を上回りました。

小中一貫教育で目指す子ども像の1つには、確かな学力を身に付けることが掲げられています。

これまでは、中学校入学とともに学習意欲や学力が低下する「中1ギャップ」と呼ばれる現象が課題となっていました。

開始から5年が経過する小中一貫教育で、このような課題が解消されつつあるのではないのでしょうか。

一方で教科や問題によっては県の平均通過率を下回るものもあります。各学校では、このような学力調査の結果を分析し、子どもたちが確かな学力を身に付けられるよう、工夫することが求められます。

教育委員会も、各学校の教育活動がスムーズに行われるよう、バックアップしていきますので、ご家庭では家庭学習の習慣化にご協力ください。